

中日（蘇州）地方発展協力模範区概要

2020年4月、相城区全域をカバーする中日（蘇州）地方発展協力模範区は、国家發展改革委員会弁公庁の承認を認められた。5月14日、国家發展改革委員会地区司は、中日地方発展協力模範区の起動会を開催し、国レベルでの日中協力区の建設が正式に始まった。相城区は模範区の建設を全面的に加速し、目標は全国の対日協力プラットフォームの見本である。



江蘇省蘇州市相城区ポジション図

一、協力模範区の前準備

2018年、国家發展改革委員会地区司は、「更に日本との経済協力状況の提供を協力する通知」を発表した。相城区は積極的に国の中日提携方針を実行し、協力模範区の建設を起動した。上級部門とのコミュニケーションや報告を勝ち取った結果、2018

文書」を公表し、中日（蘇州）地方発展協力模範区は、国内で初の6つの模範区の1つであると明記された。



中枢サービスコアのイメージ図

二、協力模範区の建設推進

1. 高起点で模範区の企画を策定する。日本大手研究機関である野村総合研究所と契約し、協力模範区の戦略的企画、中心エリアの産業発展企画、空間配置企画を次々と完成させた。協力模範区の企画範囲は蘇州市相城区の全域であり、中心エリアの面積は38.5平方キロで、「一核二翼」の空間配置が構築されている。中心エリアの形は飛び上がっているトキと似ていて、中日が共に地方発展を促進しようという美しい願いが含まれている。「一核」即ち中枢サービスコアは、国家級相城経済技術開発区に位置し、面積が約6.5平方キロであり、目標は中日産業の相談窓口と技術協力創新センターを構築する。「二翼」の東翼は知力支持翼であり、蘇州高鉄新城に位置し、面積は約10平方キ

ロ。高標準で長江デルタ国際研究開発コミュニティを建設し、研究開発企業と科学技術人財の集積地を作っている。西翼は技術転換翼であり、蘇相協力区に位置し、面積は約 22 平方キロ。スマート製造業のクラスターを形成している。



知力支持翼－長江デルタ国際研究開発コミュニティ

2. 高水準でインフラの建設を推進する。京滬高速鉄道蘇州北駅は、協力模範区中心エリアの東翼に近く、江蘇省の重点的に推進している 2 つの総合交通ハブの 1 つである。現在、容量の拡大と改築を進めていて、1 日の最大旅客数 100 万人、総建設規模 100 万平方メートル、30 ラインと 12 プラットフォームの企画と設計に基づき、積極的に上海虹橋と連動して国レベルの総合交通ハブを構築している。長さが合計 316.4 キロの地下鉄 15 本の建設が計画されており、高速鉄道と地下鉄が周辺地域数個の国際空港に直結しており、さらに協力模範区の立地優位性を高めている。中枢サービスコアの桜園などの景観も構築していて、中心エリアの生態優位性を高める。必要な都市インフラの

建設も加速し、体系的に各種の交通施設を構築し、中枢サービスコアの全体像も更に強化している。



高速鉄道蘇州北駅

3. 高品質で投資促進を展開する。昨年以来、北京、上海、東京、大阪など数回の投資説明会が開催されており、国家発展改革委員会と日立グループ協力体制の下での経済技術交流会、蘇州（相城）中日スマート製造協同イノベーションフォーラム、日本江蘇商工会議所の成立式など 10 個以上の大規模な対日交流活動を行った。省委員会の指導者と共に日本へ経済・貿易の投資促進活動を実施し、重点的に協力模範区を紹介した。グループで連続的に日本の地方自治体、商工会議所、高品質企業に訪問し、東京と富山県などのところに投資促進連絡所を設立した。中国銀行東京支店などをベースとして、日系プロジェクトの情報を的確に捉え、日本国際貿易促進協会、みずほ銀行、日中創新研究所、日中科学技術文化センターなどのプラットフォームと連携し、150 個以上の日系産業プロジェクトを成功的に誘致



夜の相城

し、伊藤忠商事、伊藤喜中国本部など 53 個の日系プロジェクトを調印した。年間目標は 100 個を超える日系産業プロジェクトを誘致する。同時に、みずほ銀行や損保ジャパンなどの日系金融機関と共に支店の設立を促進し、中信建設投資、大和証券、日本ブルーブリッジなどの機構との協力による中日産業ファンドを設立することを通じて協力模範区の金融面の支持をさらに強化している。



陽澄湖観光センター（日本設計名家隈研吾）

4. 高効率でインフラ資源を集積する。6.5 平方キロの中枢サービスコアは、生態リラックスモール、桜のウォーターストリート、シェア活力街、水辺居酒屋通り、共有リラックスセンタ



中枢サービスコアのイメージ図

一、コミュニティサービスセンターを建設し、各種の文化施設、日本人学校、日系医療サービスセンター、水辺の緑道、オープンスポーツ場などの公共施設を導入し、日系高級サービスエリアを目指し、今年後半から着工する。中枢サービスコアは、淮海街、蘇州日本人学校、イオンモール、イズミヤ百貨店などと共に蘇州の日系インフラを形成している。また、協力模範区では、ノルドアングリア国際学校、中米国際医療健康センターなどの国際的な施設も導入し、日系企業と高級人材に良い環境を作り出す。中日書道篆刻展など対日文化活動も積極的に行い、愛知県、福岡県、石川県などとの交流も展開し、相城区の友達が増え、協力模範区の国際交流チャンネルを開拓している。